



横浜銀行 ロンドン駐在員事務所 週間トピックス(2017.1.19)

＜今週のトピックス＞ 注目されるアフリカ市場

日本ではまだまだ馴染みの薄いアフリカですが、欧州では頻繁にセミナーが開かれる等、アフリカ市場への関心の高さがうかがえます。

(1) アフリカの経済状況

- アフリカ全体の面積は、3,022 万 k m²と米国、中国、インドを足した面積よりも広く、人口は 11.1 億人と中国 13.7 億人、インド 12.9 億人に匹敵します。
- アフリカの経済規模は名目 GDP の合計が 2.26 兆ドル(2015 年)と、世界第 6 位のフランスと同程度の規模となります。まだまだ国や地域によってばらつきがありますが、上位国の経済規模は、東南アジア諸国並みの規模に発展してきています。

アフリカ主要国の名目 GDP(10 億 US\$)

※(参考)アジア諸国 (出所:IMF)

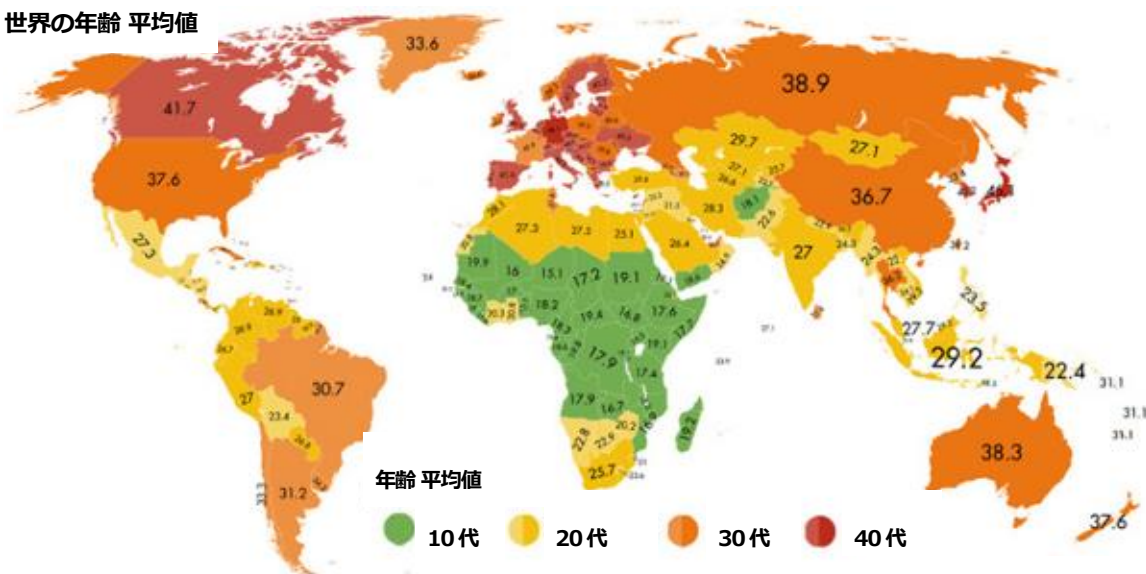
国名	2015 年	国名	2015 年
ナイジェリア	493.83	タイ	395.30
エジプト	330.16	香港	309.24
南アフリカ	314.73	マレーシア	296.28
アルジェリア	166.84	シンガポール	292.73
アンゴラ	102.96	フィリピン	292.45
モロッコ	100.59	ベトナム	191.45

- ただ、最大の経済国のナイジェリアでも輸出に占める資源依存度が 86%に達する等、アフリカの産業構造としては全般的に資源依存度が高く、昨今の原油価格の低迷により、直近はマイナス成長となっている国も多くなっています。

(2) アフリカ最大の魅力

- アフリカ最大の魅力は今後期待される人口ボーナス期です。経済成長の重要な要因の一つとなるのが人口の増加です。人口ボーナス期は総人口に占める生産年齢(15 歳以上 65 歳未満)人口比率が上昇する時期のことを言い、高い経済成長が期待されます。
- 中国や多くの国で人口ボーナス期が終わる中、アフリカ諸国は年齢の平均値も低く、人口ボーナス期を迎えています。特にナイジェリアでは、生産年齢人口比率の上昇が続く期間は、1988 年~2095 年と言われており、世界の他の国ではない、異例の超長期での成長が続くと見込まれています。

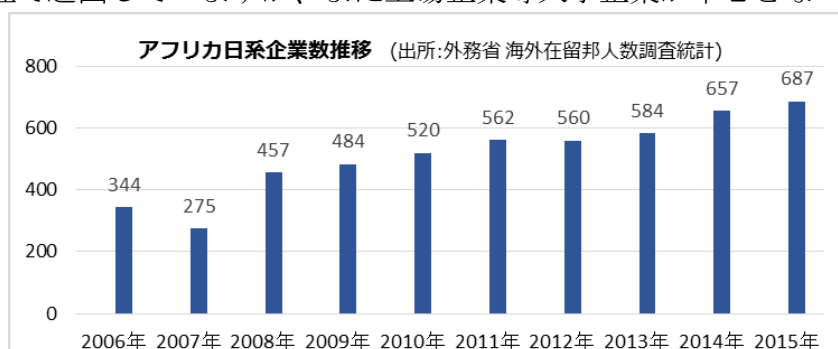
世界の年齢 平均値



出所: Global Post)

(3) 日系企業の進出増加

- 日系企業の進出は増加傾向にあります。自動車等製造業、商社、食品等幅広い業種で進出していますが、まだ上場企業等大手企業が中心となっています。



- やはり投資のリスクがある地域であることは否定できません。アフリカに進出している日系企業の話では、「治安、政情不安の問題」「規制、法令の整備が不十分で突然規制が変更になる」「電力、道路等インフラ不足」「教育、優秀な人材の確保」「外貨不足」と決して投資環境が良いとは言えないようです。
- それでも将来の成長が見込まれることから、今後も日系企業や世界中の企業の進出が進むことが見込まれます。

	1/12	1/13	1/16	1/17	1/18
FTSE 100(英)	7292.37	7337.81	7327.13	7220.38	7247.61
CAC 40(仏)	4863.97	4922.49	4882.18	4859.69	4853.40
XETRADAX(独)	11521.04	11629.18	11554.71	11540.00	11599.39
OMX20(デンマーク)	883.78	897.69	897.75	893.07	890.94
BUX(ハンガリー)	1963.59	1964.88	1966.97	1956.89	1959.77
RTS(ロシア)	1175.28	1158.19	1151.05	1156.47	1151.65

本レポートは情報提供のみを目的として作成したものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。
 ご利用に関しては、すべてお客さまご自身でご判断くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。
 本レポートは信頼できると思われる情報に基づいて作成していますが、当行はその正確性を保証するものではありません。
 本レポートのご利用によりお客さまがいかなる損失、損害を受けられても当行は一切の責任を負いません。
 本レポートはお客さま限りでご利用くださいますようお願いいたします。